

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	福祉病院常任委員会
参 加 者	委 員 長 内 田 実 副委員長 井 町 圭孝 委 員 新 免 悠香 荻野 秀範 中根 武彦 井手瀬絹子 太田 俊昭
視 察 日 時	令和 2 年 1 月 24 日（金）10:00～12:00
視察先・概要	埼玉県戸田市 人口：140,642 人 世帯数：65,881 世帯 面積：18.19 k m ² 特記事項：住みよさランキング 2019（東洋経済）総合 328 位 （安心 674 位、利便 646 位、快適 32 位、富裕 65 位）
視 察 項 目	「待機児童対策」について
視 察 概 要	- 政策推進の背景 - 平成 28 年 4 月に待機児童数が 106 人に達し、県内ワーストワンとなったため、同年 6 月に待機児童緊急対策本部と待機児童緊急対策室を設置し、3 年間で 1,200 人分の保育受入枠を緊急確保する待機児童緊急対策アクションプランを策定。 - 待機児童解消に向けた政策的プロセス - 待機児童を減らすため保育所を作る（保育所をつくる費用の補助、固定資産税の減額など）。 - 保育士を確保し、定着させるため経済的支援策を創設（就職時やボーナス上乗せ、家賃補助など）。 - 子育ての安心を確保するため、離職を防止し保育の質を向上させる（研修体制の充実や相談体制の整備など）。 - 保育所の整備 - 戸田市は公定価格の地域区分が近隣市、東京都と比べ低く保育所整備や人材確保に苦慮しており保育事業者への市単独補助金を新設。 - 整備費では、事業者負担分の 1/4 相当の補助を新設（2 年限定）。 - 運営費としては、戸田市の公定価格の地域区分（6/100）と近隣市の地域区分（15/100）との差額相当分 9/100 を補助（年間約 2.1 億）。 - 幼稚園には、長時間預かり保育の運営費用の一部を市単独で補助。 3 年間の保育所整備で事業者負担分（約 3 億円）を市が独自負担。 - 保育士確保策 - 保育士確保策を推進するため保育士への市給付金等を新設。 3 年勤務を条件に、就職支援給付金として新規採用の常勤保育士に最大 30 万円（就職時 20 万円、1 年後 10 万円）の補助を新設（3 年間限定）。

	・ 宿舍借り上げ支援として常勤保育士 1 人当たりの補助金上限額 82,000 円のうち 3/4 補助（事業者 1/4 負担）を新設（5 年間限定）。 ・ 賞与への上乗せ助成として保育所等のボーナスに 20 万円上乗せ助成を新設（5 年間限定）。 ・ 平成 29 年度、30 年度で約 2 億 2,500 万円の給付金・補助金を交付 ・ 保育士数は 406 人（平成 27 年度）から 567 人（30 年度）に増加。 5 保育の質の向上 ・ 長期的、安定的な保育人材を確保や定着化を図るためには、経済的支援だけでなく保育を魅力あるものとしていくことが重要であり、「とだの保育創造プロジェクト会議」を設置し、産学官協働で協議を行い、保育の質の向上等について立案、実践する。 ・ 協議の場には、学識経験者、公立・私立・小規模保育園園長、行政が参加し、事業を立案。 ・ 日本最大級保育士バンクである（株）ネクストビートと協定を締結し、就職フェアのブース出展や求人サイトへの掲載を行った。 ・ 保育所就職希望者を対象に「保育所見学ツアー」や「保育のお仕事面接会＆説明会」を実施している。 ・ 保育士の不安解消など離職防止のために「若手保育士交流会」や「1 園 1 チャレンジ保育園つながりプロジェクト」を実施。 ・ IT 時代に見合った宣伝方法として、Yahoo! のページ等にバナー広告を掲載したり、大型ショッピングセンターのデジタルサイネージ等へ保育士募集記事を掲載した。 ・ 近隣自治体と保育士等の優先入所に関する協定書を締結している。 ・ 現場で奮闘する保育士に寄り添う相談体制を整備するため、保育アドバイザー（園長経験者等）による巡回支援や保育の休日相談、保育コンシェルジュによる相談体制を構築している。 ・ 保育士のスキルアップ等を目的に、年 20 回市役所で研修会を実施。
所 感 視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・ 戸田市は待機児童解消に向けた取り組みに合わせ、保育士の確保・定着、保育の質の向上につなげた取り組みを展開し、成功させている。 保育士の確保には、かなりの市費を投入しており、このような施策も確保の上では必要と思われる。また、定着の面では、保育士の相談窓口の充実が必要とのこと。園長には言えないことでも、コンシェルジュなどの相談窓口には話せることがあり、実際コンシェルジュの相談件数は保護者よりも保育関係者からの方が多くなっている。園内や上司には相談しづらいことを気軽に相談できる保育士のための、できれば保育コンシェルジュ配置した相談窓口を強化することは岡崎の保育士にも必要と考える。 ・ 平成 28 年に市長を本部長とした「待機児童緊急対策本部」を設置し、「待機児童緊急対策アクションプラン」の策定から 3 年間（～平成 31 年 4 月）で保育受入枠を 1,200 人緊急確保と実行力・即対応力がうかがえる。

実際には1園だけとのことだが、市有地を活用して民間が園を新設するという考えには共感する。少子化の中で公が新規に園を開設することはせず、民設民営だとの説明があった。体系問わず、やること(子供を育てるという目的)は同じだからと株式会社経営の園がかなり多いことには驚いた。その市の考え方があるので是非は問えないが、岡崎市は社会福祉法人のみで株式会社は参入させていない。そこは堅持しながら本市オリジナルの待機児童対策を考えていきたい。

保育士の確保・保育の質の向上の施策は参考になる。保育コンシェルジュの相談体制は保育士の定着を図る上で大変有効だと感じた。

・戸田市待機児童の解消に向けた政策的プロセスの中で、課題として「保育士を確保し定着させるためには」の中で、保育士への経済的支援と離職防止し保育の質を向上させる視点は、本市においても今後十分検討する必要がある。ただし、就職時やボーナスの上乗せ支給、家賃の補助については、慎重にする必要がある。

・若者(子育て世代)の多いまちである。その背景として、新宿まで20分程度の距離に位置すること。上下水道費が全国で1番安くいろいろな面で生活費が安価であること。地価においても同じように位置的な条件の割に非常に安く購入できるまちである。そのような背景であるがために、子育て世代の若者が多く居住している。よって、就学前の待機児童の数も多い環境であった。

そこで、戸田市は平成28年6月に「待機児童緊急対策本部」と専任組織として「待機児童緊急対策室」を設置して、向こう3年間の「待機児童緊急対策アクションプラン」を策定して事に当たった。

アクションプランの三つの柱(方針)を基にいろいろな施策を行った。その中に「人材(保育士)の緊急確保」の施策があり、参考になった。プラン1「就職支援給付金」:新規採用で常勤保育士に最大で30万円の支給、市単独補助(3年間限定)、「宿舍借入支援」:常勤保育士1人当たり上限額(毎月82,000円)のうち、4分の3補助(5年間限定)。プラン2「産官学協働による保育人材確保事業の実施(3カ年)」:保育関係者・学識経験者・事業者・行政等で、将来を見据えた持続可能な仕組み等を構築する。

等の内容で、人材育成についても改革を行った。確かに、事業を起こせば人材が必要で、大切なことは常である。その問題を戸田市行政としてできる限りのことを行ったようである。

今回の視察は、岡崎市の保育にも共通する点が多くあり、視察の意味があった。そして、上記の人材確保については、保育士に限らず看護師人材にも共通することが多くあるとも思う。

・量の拡充として、市単独事業として保育所整備と保育士確保策を推進、保育士への給付金等の支援を2年間で約2億2,500万円を交付している。あわせて、保育の質の向上について「とだの保育創造プロジェクト会議」を設置、産官学協働による保育人材確保・定着化事業としてア

	ンケート調査を実施した結果、「保育士の４割が継続意向がない」ことが判明したことから、戸田市の保育の魅力アップとして、保育所見学ツアーの実施、若手保育士交流会の開催等は参考にしたい取り組みと思った。 その他の保育士確保と定着化についての取り組みは大変興味深くお聞きした。現場で奮闘する保育に寄り添う相談体制の整備として、保育アドバイザーによる保育施設の巡回支援で保育サポート、保育の休日相談として、市役所の日曜開庁日に保育士や看護師等による相談を行い、悩み事のはけ口は大変好評とお聞きした。また、昨年４月から園長と行政両方の経験者３名による保育コンシェルジュの新設では、保護者と保育関係者から多くの相談を受けている現状から、定着に大きく影響することを理解した。 公民連携で保育士を確保する取り組みとして、日本最大級の保育士バンク「ネクストビート」との保育士支援に関する協定の締結等、将来を見据え、あらゆる対策を講じている姿勢に真剣さを痛感した次第である。本市に参考にできる事が一つでも多く実現できることを望むところである。 ・戸田市が行った保育士アンケート調査の結果（約４割が戸田市での保育士を辞めたい）が意味するように、保育士の処遇改善だけでなく、職場環境の充実や保育の魅力アップ、保育の質の向上等、量から質への転換を図っていく必要があると感じた。 本市が長期的・安定的な保育人材の確保や定着化を図り、質の高い保育を続けていくための施策が必要。戸田市を参考に、保育士の処遇改善や、特に先輩・若手保育士との交流会、保育に寄り添う相談体制（保護者・保育士）の整備（保育コンシェルジュ）など市の保育士にとって魅力ある、働きやすい職場を目指してもらいたい。
委員長の総括	本市の待機児童ゼロに向けた事業の課題は、保育士の人的確保である。 戸田市では、保育士の待遇改善のために、潤沢な予算を投入するとともに、保育士の質の向上のために、「とだの保育創造プロジェクト会議」において協議し、実践指針を立案しており、また、保育業務の不安解消のために、経験豊富な保育士が対応する「保育コンシェルジュ」による相談体制を構築している。 岡崎市でも平成 28 年度から保育園経験者の職員をコーディネーターとして配置した、岡崎市保育士支援センターを設置し、保育園等における人材確保、保育園等で働く方からの相談体制を備えているところであるが、これらの一体的な取組事例は、本市においても大変有効であり、参考にすべき事例として活用していきたい。